

内海様、加藤様

坂本暉正

### ブログ、第9回 TPP の論点(工業分野の国益が本当にあるか?)のご意見へのご回答

拙論をご覧いただき、また、ご多忙な中、貴重なご意見をいただき、大変にありがとうございます。最初に、こうした意見交換により、議論や理解がより深まることになり、有益と存じます。

内海様のご意見に私見を差し上げますことで、加藤様へのご回答ともさせていただきたく存じますので、よろしく願いいたします。

さて、TPP 参加により、「さらに一層の円高進行」が避けがたく、その結果、輸出企業、その関連中小企業、国内の限界企業や事業、そして農林・畜産業など広範な打撃を受けることを示しました。

1. ご意見の核心は、(1)の「円高は TPP とは関係なく現在も進行中で・・だから、円高の要素は・・さほど関係ないです。」にあり、ここで、TPP 参加と円高が「さほど関係ないです」、というご判断が争点です。

私の主張は、TPP 参加で輸出増加すれば、間違いなく、一層の円高に拍車がかかる、という自由為替市場を前提とした自明の経済法則を喚起したものです。これは疑いがないでしょう。

現在の超円高は、金融投機の暗躍によって実態を越えて攪乱されていることはご指摘のとおりですが、しかしその金融投機の暗躍は、輸出競争力が強いという経済のファンダメンタルがベースにあってこそ可能になります。

2. (2)の「そういう韓国や中国と同じ土俵でやろうとする日本がいけないのではないですか？」については、一般論としては、鋭いご指摘で、そのとおりに相違ありません。しかし、では、具体的にどのようなビジネスモデルがありうるか、常に模索しなければなりません、現実はその容易ではないと思います。

中国・韓国は、日常の生活用品・電化製品などの中低品質のコモディティ（量産品）であり、この分野を明け渡してなお国内に十分な仕事量・雇用量を確保できるのか。現実には、そんなに簡単ではないでしょう。

失業はセフティネットで保護することも、そんなに簡単な話しではありません。働く仕事がないと、職業的スキルや熟練を得る機会が非常に限定されます。公的な職業訓練も効果は限られ、あまり役に立ちません。就業可能者が失業保険で生活し、仕事がないと、意欲低下やスキル劣化を起し、廃人同様に陥るリスクも大きいです。特に今、20～40歳までの若年の多数の非正規や失業者は、彼らが年を重ね老人に至れば、年金や医療など大きな社会問題になります。もし、TPP 参加で国内の仕事が減り、低賃金や失業が今以上に増えれば、問題はさらに深刻になるでしょう。

3. (3)の原発事故による（30km 圏内の）農業崩壊のご指摘は全く同感です。しかしながら、TPP による日本全国の農業崩壊は比較にならない程もっと深刻でしょう。あるいは、原発事故の上に、TPP が乗っかり、もう決定的なダメージを与えると言うことができるかもしれません。

4. (4)の中小企業は「メーカー依存のビジネスモデルしかない企業はつぶれますが、そういう会社はそもそも経営判断が間違っているだけで、さぼってきたツケです。」というご指摘は、そんな状況も過去に多々あったのでしょうか。

しかし、TPP の関連で考えますと、日本のように発展し成熟した蓄積のある経済が、発展途上の低賃金国との競争になりますので、不利になることは自明です。これを、単に企業努力が足りなかったと切り捨てるのは、間違いではありませんか。

そもそも、自由競争は、有利な企業や人はますます有利になり、不利な企業や人はますます不利に追いやられることになっていきますが、こうした経済発展の異なる国との無制限な自由競争は、社会として受容されたいと思います。(そんな自由主義にどんな国益があるというのでしょうか)

5. 「(5)も、すでに日本のメーカーも・・・(中略)・・・TPP があろうとなかろうと進行する事態ではないのでしょうか。」のご指摘は、正しくそのとおりです。拙論 \$ 9 に述べたとおりです。

私の主張点は、TPP により、一層加速され、今でも大変ですが、もっと酷くなるという点です。(TPP 参加でよくなるという主張に対して、良くなるわけではないという反論です。)

6. 「(6)は国の政策を変えるべきで、ためこんだ貿易黒字をどう活用するか?ということ考えたほうがいいのではないかと思います。」については、TPP 参加の結果が日本の国益になるかの論点とは別の議論です。

しかし、円高との関連で述べますと、日本は対外資産 563 兆円、債務 312 兆円で、ネットの純資産 251 兆円 (2010 年度末) を保有します。このお金で消費財を購入したり、投資に失敗して損失を計上するなどして純資産を減少させない限り、この金で資源を買おうが、米国債を買おうが、海外“投資”であり、対外純資産が積み上がるだけです。それは一層の円高を生むことには変わりありません。

ところで、政府は 1.2 兆ドル程の外貨準備を持っています。非公表ですが、大部分が米国債と推測します。この資金は、本来は輸入などで対外決済に必要な時に使用するための準備金であり、また、日本は社会主義国家ではないので、この資金を国が政策で直接投資したり使う方法や手段はないと思います。

さらに、日本は保有する米国債を売ることは、米国債の暴落を引き起こしかねませんので、到底出来ません。(円買い介入でドル外貨が積み上がることは、拙論 \$ 13 をご参照ください)。

次に、「どんどん国際企業化して、世界中の途上国に欧米と同じく「支配」をするべきだと思います。」については、各企業が溜め込んだ貿易黒字をどう使うかは個別企業の問題です。日本も石油資源に投資したり、生産工場や M&A で投資しており、受取配当などの海外所得が 12 兆円超 (2009 年) にもなっていますので、それなりに進めていると思いますが、中国のような国有企業のようにには行きませんね。

7. 「だから、国が農民を生活保護で「農林公園職員」として雇って給料あげてあげていけばいいと思います。国土維持のためにはそれで十分かと思います。」については、そんな財源があるのでしょうか。恐らく無理だと思います。

なお、農業補助金は、米国の農家は、伊藤正直・東大大学院教授の資料によると、農業所得の 48%(2008 年)が政府の補助金であり、日本は 16%に過ぎません。米国のように補助金を支給できるのでしょうか?

8. 「あとは坂本様がつぶれると思われる、国の独立に必要な、基幹産業や、メーカーの部品産業も重要な部分だけ国策的に生活保護生かして温存すればいいでしょう。」については、TPP は広範な打撃が想定され、そんな生活保護は財源がないと思いますが、如何でしょう。そこまでして、既に日本は十分国を開いているのに、さらに TPP のような劇薬を飲まなければならない正当性があるのでしょうか？

9. 「今起こっているのは、貿易戦争が最終的には世界大戦になるという歴史の必然性のプロセスです。」について、TPP 参加や円高と別の議論ですが、この危機を指摘する人もいて不気味です。確かに現実のポリティクスは、正論を掲げた理屈ではどうにもならない現実もあると思いますが、こうならないように努力していくという以外にありません。イスラエルが自分で核兵器を持ちながら、核兵器開発疑惑でイランを攻撃するなどは、本当に危険な気がします。

10. 「円高は、坂本様がおっしゃるような自然現象ではなく」については、円高は自然現象ではありません。人間が作った自由為替市場の経済法則です。そこにご指摘の金融カジノが不当な操作で動かしています。

次に、「世界の一握りのお金持ちが動かして偽造している「カジノ」ですから、その元締めに直交渉して、説法して、心を正してもらうしかないんじゃないかと思います。」は、全く同感です。

金融は、経済的価値を生まないのに、実物経済が生み出した富を横から奪い取る（合法的な）盗みの行為です。ましてや、一国の経済の血液である通貨を投機で乱高下させて差益を抜き取る行為は、その血液を吸う吸血鬼です。

投機はご存知のとおり、価格が上がっても下がっても儲けるように仕組みでいます。価格が安定していれば差益を抜き儲ける機会がなく、価格変動と混乱こそが彼らの好むところです。

本来なら禁止されるべき不当なものですが、何故か経済学者も口を閉じています。横浜国大の公開講座で金融論の教授に、「禁止せよ」と発信すべきでないか、と質問しましたところ、「自分たちには影響力がなく、こうした講座で愚痴を言っているのが精一杯です」との弁に一同笑いを抱えました。米国の金融界と政界を支配しているユダヤ金融が黒幕ですが、規制できないのが現状です。

11. 工業分野のメリット・国益を経済原理により分析したものが拙論です。メリットがないどころか、逆の悪影響があることを明らかにすることです。

思えば TPP 推進も原発推進と同じ構図を感じます。安全神話を吹聴し、マスコミもそれほど根拠もないままそれに乗ったことが朝日新聞の連載「原発とメディア」や NHK スペシャル（2011 年 11 月 27 日）で明らかになっていますが、安全神話に類似のマスコミや俗論的なエコノミストの扇動が溢れています。輸出拡大で経済活性化するなど、真実でなく殆ど詐欺的な扇動であり、これは許せません。

野田総理から、日本の国益を守るべく TPP 交渉すると調子のよい言葉だけが踊っていますが、本命の工業分野でもメリットがないのに、本当に国益を認識し、交渉ができるか、これも大きな問題です。

なお、加藤様のご意見「欧米支配体制を更に強化する」「中国を engagement と hedging の戦略で牽制」につきましては、拙論と別の視点ですので、今回は割愛させていただきますので、ご容赦ください。

以上、刺激的なご指摘で、私にとりましては有益でした。ご多忙とは存じますが、今後ともご意見をいただき交換できましたら幸甚です。